

研究

日高 直, 草野 佐, 小沢 俊総
 吉利 彰洋, 吾妻 司, 手塚 秀夫
 葉梨 智子 (社会保険山梨病院)
 小俣 好作 (同病理)

日本住血吸虫症が大腸癌の発生に関与しているか否かを, 当院における大腸癌切除例128例を日本住血吸虫症例, 非日本住血吸虫症例に分けて比較検討した。その結果, 年齢別分布, 占拠部位, 肉眼形態像, 病理組織分類, 予後などの点において両者の間に有意差は認められず, 日本住血吸虫症が大腸癌発生に関与している証拠は見出せなかった。

しかし, 少数ながら日本住血吸虫症に特異的と思われる症例もあり, 今後さらに症例を追加検討していく必要があると思われる。

31. 肝小腫瘍診断に関する2, 3の知見

林 俊之, 御子柴幸男, 糟谷 忍
 平山 芳文, 新井 稔明, 中迫 利明
 平塚 卓 (谷津保険病院消化器外科)
 藤野 信之, 鈴木 義之 (同消化器内科)

近年進歩著しい画像診断法を駆使し, 当院では肝内小腫瘍診断に力を注いでいる。最近2年間では, small liver cancer に対し4例を切除, 15例に局注療法を行い得た。今回, 診断に苦慮した small liver cancer の例, HCC と術前診断を下した nodular hyperplasia の例, 非定型的像を示した cholangio carcinoma の例をそれぞれ呈示し, 以下の知見を報告した。

1) VS およびリビオドールでしか描出されない HCC がある。

2) CT, dynamic CT, angiography, および angio-CT で HCC のパターンを示す nodular hyperplasia がある。

3) Dynamic CT で hemangioma に類似したパターンを示す cholangio carcinoma がある。

今後, 確実な術前診断のために, VS 下もしくは腹腔鏡下の生検を積極的に行ってゆくつもりである。

32. 腹腔鏡の藪眺み

林 直諒, 進藤 仁, 足立ヒトミ
 春田 郁子 (国立横浜病院消化器科)

我々が経験した腹腔鏡検査例で, 腹膜, 横隔膜病変のうち興味ある症例について述べた。

1) 転移性腹膜癌で肝細胞原発例では, 黄白色調で易出血性かつ球形を呈していた。結腸原発の腹膜癌では, 扁平白色調であったが, 一部のものは嚢胞様で悪性を

思わせる所見に乏しかった。このように腹膜転移では腹膜による修飾も受けるため原因不明の腹膜腫瘍を見た場合, 生検も重要であると思われた。

2) 横隔膜の筋性隆起は比較的頻度の高いものではあるが, 高度のものではそれによる圧痕が生じ, 肝シンチグラムなどで欠損像を示すこともある。

3) 肝鎌状間膜の欠損は稀なものであるが, その程度は様々であった。中程度のものでは腸管を巻き込みイレウスを起こした報告があるが, 高度のものはむしろ臨床的には何事もなく経過すると思われた。

33. 当院における肝切除症例の検討

小形 滋彦, 梁 英樹, 新見 晶子
 栗原 毅, 済陽 高穂, 鈴木 寧
 野村 淑子 (至誠会第2病院消化器科)

1987年5月より12月までの8カ月間に, 我々の経験した肝切除症例は7例である。その内訳は, 肝細胞癌4例, 直腸癌肝転移1例, 肝門部胆管癌1例, 炎症性肝肉芽腫1例である。このうち興味ある症例として46歳女性の炎症性肝肉芽腫の症例と70歳女性の自己免疫性肝炎に合併した肝細胞癌の切除例について詳述した。

34. 肝癌に対する1治療例

木村 健, 平野 宏, 宮川 晋爾
 (宮川病院)

武藤 晴臣 (東京女子医大消化器病センター)

今回, 我々は左葉にも satellite が認められた右葉前区域の肝癌に術前化学塞栓療法を併用した前区域切除術を経験した。術後残存肝の腫瘍の増大が見られ, TAE を施行したが, 一時的には増大を抑えたものの, 最終的には腫瘍の肝管圧排による閉塞性の黄疸で1年3カ月で死亡した。

術中に固有肝動脈に埋め込み型のリザーバーを留置しておくべきだったか, 最初から左葉外側区域も切除しておくべきであったか, 或いは左葉の腫瘍の増大が認められた段階で積極的に外側区域切除に踏み切るべきであったか, また, 術後原因不明の腎不全を併発したが, 日本住血吸虫症との関係は無かったか等幾つかの反省点, 問題点が浮かび上がったため今後のためにもお教え頂きたいと報告した。

35. 胆道鏡を用いた胆嚢結石の摘出

鈴木 浩之, 荻野 佳紀, 中村 集
 平田 清秀 (済生会スズキ病院)
 後町 浩二 (聖マリアンナ医大第2外科)

胆石症の治療法は, 最近の器械および手技などの進